

患者さんと医療者の間に新しい道を作る —東京女子医科大学に「からだ情報館」オープン

東京女子医科大学に新しく開設された総合外来センターの1階入り口にオープンした「からだ情報館」は、患者が自分の病気やからだについてさまざまな情報を得る場所です。当館の開館のコンセプトを内潟安子先生(東京女子医科大学糖尿病センター)に聞きました。

「当館でしか得られない情報を提供することを目指しました。そのために企業が作っているパンフレットや一般には入手できないビデオなども吟味して収集しました。これらはわれわれ医療者にも役立ちますし、マスコミ関係者にも利用していただきたい。」

従来の患者図書館とはまた違った患者と医療者の道づくり、と言えると思います。当館からやがてアメリカの Mayo Clinic Health Letter のような患者向けの質の高い医療情報が提供されることを期待します。当館については、弊社の「週刊医学界新聞」の9月号で詳しく紹介します。M



写真は、時計回りに、総合外来センター1階入口の全景、「からだ情報館」外観、以下「からだ情報館」の内部。